

法話

和顔愛語

幸せの挨拶

満井 秀城師

本願寺派総合研究所副所長

おだやかな顔
やさしい言葉

「和顔愛語」。どう読むと思われませんか。「ワガンアイゴ」と思っている人もいるかも知れません。確かに、「和顔」には「ワガン」という読み方もありますが、もともと仏教語ですから、仏教の読み方(呉音)で「ワゲンアイゴ」と読むのが正解です。

もともと仏教語だと申しましたのは、お経の中に出てくるからです。浄土真宗のお経

では、『無量寿経』に出てきます。そのため、読み方も經典の読み方に従うべきです。意味についても、經典中の意味に従って理解すべきです。

意味は、「おだやかな顔とやさしい言葉」といったところですが、問題は、『無量寿経』のどこにある言葉なのかということです。

法蔵菩薩の修行の一つ 完全には実行不可能

『無量寿経』は、浄土三部經の中でも阿彌陀さまのことが最も詳しく説かれた經典ですが、「和顔愛語」は、阿彌陀さまが仏となられる前の、法蔵菩薩であったときの修行の一つとして説かれています。

他者に接するときには、穏やかな表情で接し、つねに優しい言葉をかける生き方。

とても尊い生き方ですが、私たち凡夫において、これでは実行することは不可能ではないでしょうか。落ち込んでいるときや面白くないときには、不機嫌で無愛想な態度になりますし、腹が立ったり、イライラしたときには、人を傷つける言葉を投げかけてしまいます。また、優しい丁寧な言葉のようでも、打算にもとづいた二枚舌やおべんちやら、その場を取り繕う嘘であったりと、不実な心が表れたものに過ぎず、裏表があるのが私たちです。

しかし逆に、考えてみてほしいことがあります。イヤなことや上がり、不愉快なものは毛嫌いして払いのけようと

する私の手が、仏さまの前ではなぜか自ずと合わされるのです。また、人の悪口を言うのが楽しく、愚痴ばかりこぼしている私の口から、「南無阿彌陀仏」とお念仏が出てくるのです。あるいは、困っている人を見かけたとき、打算とかではなく自然に優しい言葉がかけられることさえあるのも事実です。

これは、どこから来ているのでしょうか。私の不実な思いからはありえない話で、ひとえに、仏さまのお育てによるのでしょうか考えられません。

阿彌陀さまの光
断えず私をお育て

その出所について考えてみると。

『無量寿経』に説かれた、阿彌陀さまの四十八願の中では、第三十三願を「触光柔軟の願」と含み、阿彌陀さまの光に触れた者は、身も心も柔らかくなることとされるのです。では、阿彌陀さまの光に出遇った者は、どうして身も心も柔らかくなるのでしょうか。

阿彌陀さまの光について、『無量寿経』では「十二光」が説かれ、親鸞聖人も「正信

偈」の中で、この「十二の光」をすべて挙げておられます。その内、「清浄光」は、清らかなお徳のことで、私たちの汚れたむさぼりの心(貪欲)に向けられます。「歡喜光」は、喜びのお徳で、私たちの怒りの心(瞋恚)に向けられます。喜んでいるときには、怒りは同時に起こりません。「智慧光」は、智慧のお徳で、私たちのおろかさ(愚痴無明)に向けられます。つまり、清浄・歡喜・智慧の光によつて、私たちの「三毒(貪欲・瞋恚・愚痴)の煩惱」を治療してくださるという事です。

しかし同時に、私たちは「煩惱成就」の身でもありませんから、次々と煩惱が湧き起こってきて、さつきまで機嫌が良かったのに急に怒り出したということもしばしばです。そのため、「普段光」として、「断えず」治療薬を施してくださるわけです。

このような光に出遇うからこそ、不実な私の心が柔らかな心となり、穏やかな表情や心からの優しい言葉(和顔愛語)が生まれるのです。

すなわち、「和顔愛語」の出所は、不実な私の側から出て

くるのではなく、仏さまの側からのお育てによつて起こるということであり、この点が、浄土真宗として「和顔愛語」を語る上で、特に注意しておかねばならないことだと思えます。

和顔愛語」の実践
自他ともに心豊かに

くりすあきら君という少年の詩に、

ありがとうは

しあわせの

あいさつです

(「ありがとうのてがみ」

くりすあきら著)

という一節があり声した。

「ありがとう」と言われたら、とても幸せな気持ちになりますし、「ありがとう」と言えるのは、その人が幸せだからと言えるでしょう。

「和顔愛語」も、「幸せの挨拶」だと思えます。穏やかな表情や優しい言葉で接してくれたら幸せな気持ちになれます。そして、穏やかな表情や優しい言葉が掛けられるのも、その人がそういう身に育てられた幸せの証しです。「自他とにも心豊かに生きていくことのできる社会の実現」に向け

て、「幸せの挨拶」として、「和顔愛語」を実践していきましよう。

本願寺新報
平成30年6月10日号掲載

お知らせ

孟蘭盆会法要のご案内

お盆は13日からですが、たくさんの方にお参り頂けるように、お盆前の**日曜日**の、**7月8日**にお勤め致します。

記

○午後一時より

門信徒講座

○午後二時より

孟蘭盆会法要

それぞれについての詳細

今年、法要前の時間に、初めての試みとして、門信徒講座を行います。

主題

「エンディングノートを活用しよう」

活用しよう

くもしもに備えて安心を

「終活」だけでなく、病

気や事故といった、もしも

のときに備えて安心しませんか。

遺言書の作成や痴呆や介護の時の成年後見制度の活用など、細かな制度を知る前に、まずは自分自身の「棚卸し」をしてみませんか。講座ではきっかけ作りにエンディングノートを活用します。

ご出席者にはエンディングノートを差し上げます。ノートを見ながらご一緒に考えていきませんか。

講師 大塚大氏



教誓寺門徒総代

駒沢公園行政書士事務所
行政書士(東京都行政書士会理事)
知財管理技能士(コンテンツ1級)

午後2時より

孟蘭盆会法要

教誓寺門信徒皆様の法要です。昨年のお盆以降

から今年のお盆までにお亡くなりになった方々の「新盆」法要を併せてお勤め致します。法要の中で御法名をお読み致しますので新盆にあたられる方は、是非お参り下さい。

お盆の期間

7月13日(金)～

16日(月)

○教誓寺維持会費について
本年度も維持会費ご納入下さり有り難うございます。皆様のご納入は順調ですが、残念ながら住所が不明になったりして、しばらく連絡が取れなくなっている方も少数ながら御座います。転居なさるときには、お寺へもご一報下さるようお願い致します。これからご納入下さる方も、早めにお願ひ致します。

浄土真宗本願寺派 圓生山 教誓寺
108-0073

東京都港区三田 一十二一十一

〇三(三四五)二三九

kvs176@jsa.so-net.ne.jp